



まちづくりバス研修実施しました！

コロナ感染症の関係でこれまでの事業が中止になっている中、やっと開催できたバス研修。密を避けるため大型バスに定員半分の21名で参加しました。

平和の大切さが語り継がれている大刀洗平和記念館と、九州北部豪雨で被災した朝倉市を訪問。

朝倉市では、被災から数年経過しながら今も尚、復旧途上である現場で、これまでの経過や今後の対策について、体験者である地区代表者から意義深い説明を受けました。

また、筑後川の山田堰は、故中村哲医師がアフガニスタン灌漑用水路建設の参考にしたと言われる堰で、川を有効活用するための先人の知恵や考案力、実行力の偉大さを実感させられる場所でした。



朝倉市被災地復旧現場



見ごたえのある山田堰

支え合い推進会議

「人と人のつながりがもたらす可能性」

10月30日(金)山澄地域包括支援センター主催令和2年度第1回南地区地域支え合い推進会議が、南地区公民館講堂で開催されました。

周囲の支援によって生活の立て直しが実現し前向きになれた高齢者の実話を、包括支援センター職員(劇団山澄座)が劇にして動画で披露したもので、その支援の効果は驚きであり今後の活動の参考になりました。



人と人のつながり、地域の方の協力で
少しずつ前向きになりました！

中止

第30回文化講演会(楽しかまち部会)

コロナ禍により中止となりました。

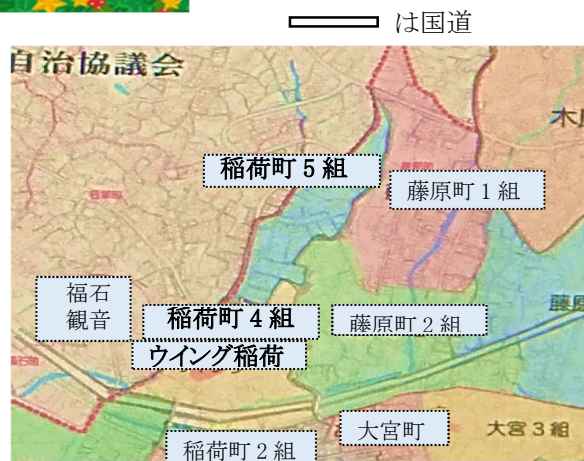
「わがまち紹介 南地区」

今回は、第5回目、木風小学校区の稲荷町です。

稲荷町は6ヶ町に分かれていて、佐世保駅から早岐方面に向けた国道の途中、福石観音の先から、稲荷町バス停付近までを占めています。

今回ご紹介する稲荷町4組、5組、ウイング稲荷は、国道から主に左側上方に広がる町で、子供達が木風小、山澄中に通う校区です。

福石観音前の交差点を左折して右側の斜面地一帯に住宅地が広がります。道路沿いの商店は減少していて、高低差のある地勢は、買物にも歩くのにも高齢者にとっては大変な苦勞となっています。





稲荷町 4 組

福石観音から稲荷町バス停留所付近まで平地と斜面地が入り混じった町です。老人会と女性部の活動が活発で、町内はとてもまとまっています。小さいころからこの土地で育ち町内を熟知している野田館長は、今年 8 年目となる館長職について、老人会と女性部がなければ町内運営は出来ないとされます。



野田館長



老若男女大勢参加して町内輪投げ大会
何点とれたかな？

町内の人々が顔を合わせる機会を作るために、輪投げ大会等で世代間の交流を図っています。毎年 10 月は、ウイング稲荷マンション敷地内にある「菅原天満宮」の祭礼を公民館で実施しています。館長が子供の頃は、舞台を作り神輿を担ぎと大掛かりなものでした。館長は町民が安全安心に楽しくあれば嬉しいとのこと。課題は避難場所の確保で、日夜頭から離れません。



菅原神社鳥居

稲荷町 5 組

館長になって 3 年目の立石館長は、融和の精神で町内が和気あいあいできることを目標にしています。町内会加入者が減少しているので、入町の勧誘を進めているがなかなか入ってもらえないことと、アパートが増え知らない人が増えているのが気になっています。



立石館長

孤独死を案じ警察との連携を模索していますが、なかなか進まないのがもどかしいことです。と話されました。



細い段々道を上がり毎週公民館に集まります。

毎週日曜日のいきいき百歳体操の後には、お喋りしたり手作り資料を配ったりしてなごやかに楽しい時間を過ごしています。敬老会は、飾りつけを子供たち親子にお願いし世代間で協力して盛り上げています。子供数が少ないので若い家族が増えたらとても嬉しいです。高齢者の施設入居が増えており、一日でも長く元気に町内で暮らしてもらいたいと願っています。

ウイング稲荷

稲荷町 4 組地区にマンションが建ち、平成 2 年 10 月 1 日 [ウイング稲荷町内会] が発足しました。現在役員は 10 名で、それぞれの持ち場で活動してもらい町内会長として大変助かっています。と言われるのは、今年町内会長 9 年目になる江口会長。今の状況を維持できることが一番の安全安心です。とのこと。



江口会長



毎年恒例の女子会！
会長にも話の内容は分かりません♡

町内運営がうまくいっているので、敬老会や年 2 回の市民大清掃もスムーズに運びます。以前は、マンション裏の公園でペットボトルを使いボーリング大会をやっていました。稲荷町 4 組が毎年祭礼を実施される「菅原天満宮」はこの公園にまつられています。

マンションの玄関は階段になっているので、高齢者が増えた現在では、その上り下りが苦勞で常々大変気になるところです。年一回の女子会が特筆する行事です。



コロナ感染症の第 3 波を憂う小池都知事から、「5 つの「こ」と心遣い」という新語で注意喚起がありました。新しい生活様式は既に日常になっています。引き続き、マスク、手洗い、距離を保つ、の実行で御身お守りください。